



溪齋共泉畫圖

下

後漢の李康字ハ公紀
年五十九江都人
如左表城と云ふ事也

大

考
諸
皆
天
性
人
間
六
歲
兒
神
中
懷
綠
橋
遺
田
報
舍
倉



前あるを張孝張禮の祭順を更ふ似たりと云ふ兄弟死をあらざる事を
 きて孝の志應に其義を稱するふるを二十四章と省て可やん且田
 真田廣田慶の兄弟三人も孝志の更ふありを双親没して石家財
 と入を分るんと云其非義非禮なる愚の甚きものありまを惣領乃
 田真より入の弟より示して各身と立家と云ふ永く繁栄して先祖の祭りを
 する所ふ心と用ざる更の孝道の立所多く利欲の耽りて二十四章を八人
 分のありてこれをもより人々のあり有るを改るふより俱に二十六
 章と云ふ東見記に載と云毛利拙庵の廿四章孝行録廿四孝評松會松井
 四孝諺解其他板の勸教をあれ彼と取是を捨ることせし見あるを爲
 孝の教と元立と云ふあり勸善懲惡の趣意と云ふ入務て孝の道
 と守りのべいと見せ來らるるに於て双帝と云ふ此の二助と云ふあり

東都

一筆并英泉補綴並画



書肆

芝神明前三馬町
 甘泉堂 和泉屋市兵衛版

